

様式 1 〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 8 年 7 月 5 日

東員町議会 教育民生常任委員会

委員長 川瀬 孝代 様

東員町議会 教育民生常任委員会

委員 山崎まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 8 年 6 月 24 日（水）～ 6 月 25 日（木）【2 日間】
研修（視察）先	◎岡山県和気町役場・・・部活動の地域移行について ◎大阪府堺市 市役所・・・「堺あったかぬくもりプラン」 について
目的（テーマ等）	6/24・・・部活動の地域移行について 6/25・・・「堺あったかぬくもりプラン」について
特記事項	◎東員町中学部活地域展開～地域とともに育む新しい 部活動のかたち～と、「中学生のスポーツ・文化環境 づくりに向けた和気町の取組」との対比 ◎「第 2 次東員町地域福祉計画・地域福祉活動計画」と、 「堺あったかぬくもりプラン」との対比

※ 目的、研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 山崎 まゆみ 〕

目的、研修概要

6/24

①東員町中学校部活動 地域展開について

- (1) スムーズに進められるようにするためのヒントを学ぶ
- (2) 懸案事項としてどのようなことがあり、それをどう克服されたかを、学ぶ
- (3) 部活展開が軌道に乗ったら、今後の方向性としてはどのように考えて行くのかについても学ぶ

6/25

②堺あったかぬくもりプランについて

- (1) 東員町の包括的な支援体制の整備について検討しているが、その課題となっていることがらについて、方策を考えるため、堺市さんの支援体制、相談体制について学ぶ
- (2) 制度のはざまと言われる事例、具体的な事例の支援体制を考えるための堺市さんの取り組みを学ぶ

《研修概要、内容》

6月24日（水） 部活動の地域展開について

「中学生のスポーツ文化芸術環境づくりに向けた和気町の取組」

説明者＝ 和気町 教育委員会

1、 和気町がすすめるスポーツ・文化芸術環境づくり

(1) 部活動の地域移行に向けた取り組みの流れ

●休日部活の地域移行に向けた検討委員会

(R4年10月～R5年1月迄 4回)

●広報紙で、中学校部活についての問題提起の記事を掲載(R5年2月)

●和気クラブ指導者を中学校部活動指導員に委嘱(R5年4月)

○吹奏楽クラブ立ち上げに向けた協議(R5年5月)

●広報紙で、地域移行の取組紹介(啓発)(R5年7月)

●指導者研修(R5年11月)

○吹奏楽クラブ設立 (R5年11月)

●中学入学予定者説明会にて、説明 (R6年1月)

●平日の部活移行の試行 (R6年2月)

●広報紙で、地域移行の R5 年度取組報告 (R6年2月)

○吹奏楽クラブ第5回活動 (R6年3月)

●和気クラブが、一般社団法人になる (R6年4月)

●スポーツ庁・文化庁委託事業契約 (R6年4月)

●野球部募集を停止し、トレーニング同好会設立 (R6年4月)

●トレーニング同好会への環太平洋大学教員・学生の指導開始

(R6年5月)

○吹奏楽クラブ（マスタースアカデミー）活動開始

【参加者対象者の明確化】 (R6年5月)

○吹奏楽クラブ（楽器体験会）活動開始【参加者対象者の明確化】

(R6年6月)

●先進地視察（飯田市）・・・部活動実施種目以外の活動の事例

(R6年7月)

●教職員アンケート【ニーズ把握】 (R6年7月)

○楽器体験会成果発表 (R6年8月)

○先進地視察（兵庫県加古川市）【吹奏楽部地域移行先進事例】

(R6年8月)

●指導者研修（法的責任・中学生期のトレーニングについて）

【指導者資質向上】

(R6年9月)

- 生徒と保護者にアンケート実施【ニーズ調査】 (R6年9月)

- トレーニングクリニック活動開始【平日部活の移行の試行】

(R6年11月)

- 楽器体験会成果発表 (R6年11月) ～町文化祭出演～

- 広域連携に向けた地域自治体担当者連絡会

【広域による受け皿整備】

(R6年12月)

- 吹奏楽クラブ主催行事 (WAKE フェス BRAss)

【啓発】

(R7年1月)

- 広報紙で、地域移行の部活地域展開に向けた R6 年度取組紹介【啓発】

(R7年1月)

- スポーツ庁・文化庁委託事業契約

- 広報紙で、地域スポーツ・文化芸術コーナー【啓発】 (R7年4月)

※以後、毎月コーナーを常設

- 吹奏楽クラブとダンスのコラボイベント

(R7年6月)

- イマチャレコンペション 2025 参加

【先進事例情報収取】

(R7年7月)

- 産学官連携フォーラム参加【先進事例情報収取】

【関連企業によるソリューション情報収取】 (R7年8月)

- 軟式野球クラブ「ALL WAKE」開講

(R7年9月)

○吹奏楽同好会の休日部活の地域連携 (R7年9月)

●バレーボール教室開講 (R7年10月)

●和気クラブフェスタ (R7年11月)

●保護者研修・ジュニアアスリート睡眠栄養講座 (R7年11月)

○和気太鼓クラブ体験会 (R8年1月)

○吹奏楽とダンスのコラボイベント (R8年1月)

○部活動地域展開に向けた検討委員会 (R8年1月)

●産学官連携フォーラム参加【先進事例情報収取】 (R8年1月)

【関連企業によるソリューション情報収取】

●先進地視察（新潟県村上市） (R8年1月)

【自治体種主導の部活の地域展開、総合型地域スポーツクラブによる多様な受け皿設定先進地事例収集】

●県教委主催成果報告会 (R8年2月)

◎部活動地域移行の実現に向けた和気町グランドデザイン

★町内2中にあるすべての部活動の休日における活動の地域移行の実現

★受け皿となる団体の持続可能な運営体制の実現

⇒「新たなスポーツ・文化芸術環境の構築」

6月25日（木） 堺 あったかぬくもりプランについて

<第5次 堺市地域福祉計画>・

<第7次堺市社会福祉協議会地域福祉総合推進計画>

～ともに暮らすまち、支え合い続けるしくみを、

わたしたちの”参加と協働”でつくる～

「すべての人に居場所と役割が有り、互いの違いを認めながら、全ての人が尊重され、安心して暮らせる共生社会の実現を目指します」

「また、地域の力を結集し、多様な主体が協働し、全ての人が孤立することがない支え合い続けることができる環境を築きます」

◎人権尊重と共生を進めること

◎すべての人が尊厳をもち、社会の一員として生活できるように包括的に支援する

◎多様な人や、組織が参加・協働する

◎社会の変化や法律・制度の変化に柔軟に対応する

基本目標 1 誰一人取り残さない支援体制の構築

基本目標 2 多様な人や組織の参加と協働の地域共生社会づくり

基本目標 3 全ての人の権利が守られ、尊厳のある本人らしい生活が継続できるように

基本目標 4 災害時にも安心で、支え合う仕組みができていること

★重層的支援体制整備事業実施計画

★社協の地域福祉推進計画

《所 感》人口減少が進む中、学校と地域がそれぞれの役割を担って、連携することで、生徒の活動を切れ目なく支えられるという考え方に基づいて、文科省の提唱する「部活地域移行⇒部活地域展開」について、先進地である和気町の視察では、早期に構想を立てられ、スポーツクラブと文化芸術活動と分野別に着手されてきました。

これまで学校教員が担ってきた部活動の指導を、地域クラブや団体に移行する取り組み、新しいプロジェクトを成功させるには、並大抵の努力でできることではなく、長期計画、中期計画、短期計画の経営計画が必要であると一般的に考えられます。

和気町教育委員会で、初期にメリットデメリットを明確にされ、「子どもの活動機会の拡大」を最優先に考え、教員の働き方改革による「教員の負担軽減」「専門指導者による技術向上の期待」「学校段階が上がっても種目やチームを変えず

に継続できる可能性があること」そして、「地域クラブの活性化」が、子どもから大人まで参加できるスポーツや文化芸術活動の整備につながるという、子ども・地域・教員の3者に関するメリットを大きく謳って、それを児童や保護者、地域に理解してもらえるように、適材適所広報紙で、情報提供と啓発をしているところが、プロジェクトを有効に進行させられた重要なポイントであると思います。

新しいことをスタートする時には、「デメリット」や「困難課題」のイメージの方が大きいので、住民意識調査(ニーズ調査)を児童、保護者、教員、地域対象で実施され、保護者の懸念や、指導者の確保についての調査を、先手打つように早目に実施されていたことも効果的であったと思います。2023年度から2025年迄

の3年間を、部活地域移行の改革推進期間として、「休日の運動部活動」を中心に地域移行を段階的に進められて、時期を半年ずらして、吹奏楽クラブの立ち上げをされた点も、効果的であると思います。

地域移行が不十分であると、子どもたちの活動機会が減少してしまうリスクがありますが、実践研究のために国主導のスポーツ庁・文化庁の委託事業を受けられることを早期に決められてモデル校として手を挙げられたことがとても良かったと思います。

適宜、先進地視察や研修の機会を設定されたり、実践研究しながらの部活動の地域移行・地域展開の取組の進行、子どもと保護者と地域住民に「専門指導者による技術向上が期待できる」ことなど、情報提供や啓発で協力を養成し要請したりするための広報活動、これらのセットの地道な取り組みが、着実に運営形態を定着化させていけるということが、とてもよく理解できました。東員町の中学校の地域展開についても、休日の運動部活動から段階的に実施されて、地域のスポーツクラブや民間団体が主体となって運営を目指しています。東員町教育委員会でもテーマに掲げている”地域とともに育む新しい部活動”の移行が、学校区の枠を超えた活動選択肢の拡大にもなるところも大いに期待しながら、これから実行期間に入っていく取組を、地域で支えていきたいと思います。肝要なのは、子どもが中心であるため、子どもの声によくよく耳を傾けながら進めていく事だと思っています。

堺市の「あったかぬくもりプラン」については、政令指定都市で人口規模も東員町とかけ離れる自治体の視察ではありましたが、地域づくり、参加と協働で支え合いのしくみをつくるというところは、東員町も堺市も同じであると実感しました。

少子高齢化、デジタル化の進展、重複障がいや家族形態の多様化など、困難事例の増加などにより、地域福祉を進めていく事の困難さが有ります。住民通しが互いに支え合いながら、地域団体や企業など多機関で協働していくこと、東員町

も課題を認識されているので、東員町の実情に合ったやり方で進めていくしかないと思います。

「地域の実情」に合った提供体制を構築していくのが市町に求められる対応です。「介護や福祉では市町村が主体的に仕組みを作るように」という国からの期待がありますが、「地域の実情」という言葉の意味や、自治体に必要な対応を明確にしないと、国が市町村に、責任を丸投げする結果になりかねません。

「地域」とはまずどんな単位か？という点では、堺市さんが中学校区単位の日常生活圏域とされていますが、それだけでは不十分で、「地域包括ケア『見える化』」システムを使って把握できるということ、住民の互助の力や、意欲や力量がある事業所や専門職がいるかどうかなど、データで把握しきれない要素も考慮するためには、データの収集分析をするだけでなく、地域に出向いて関係者からの情報を集めると言う事が欠かせないという内容のお話も有益でした。

東員町で担当課のヒアリングをした際に、『地域ケア会議』の取り組みをきちんとされており、個別課題の解決やネットワークの構築、地域の課題の発見などを行っているということでした。

「検討した事例の個別課題を解決する方法」「参加している関係者とのネットワークを強化する事」「地域ケア会議に参加している人通しの会議の目的と意識の共有」については、東員町担当課のヒアリングで、おおむね取り組んでいると感じました。

さらに、検討した複数の事例から地域課題の抽出をすることすなわち「個別課題の普遍化」で、地域福祉の政策形成に繋げていこうと努力されていることも、町福祉担当者からの説明で、おおむねなされていることがわかりました。

複雑困難事例ばかりを考える地域ケア会議だけでなく、「地域の課題を解決する方法について、色々なやり方を工夫していけると良い」という堺市さんのお話がありました。住民主体の体操教室やいろんな地域住民活動の取組を活用しながら、町内各地での取り組みを紹介しながら、昔の時代は普通にあった「お互い様」「地域での助け合い」が、無理なく地域で継続していけるように、行政により確保される伴走支援等のサポートと、支え合い機能の充実をはかるための環境整備も行政でしっかりとしていってもらえるようにと、改めて感じました。

「地域共生社会」という言葉を言われて久しいですが、言葉だけがむなしく響いているだけでは無意味です。

分野を超え、世代を超えて、住民それぞれ、ひとりひとりのその人らしさと、その人自身の生きがい&ウェルビーイングを地域共生で、つくっていけるように、地域で協力し、議員職の立場からも、引き続き町のセーフティーネットの構築に取り組んでいけるように、国の動向、社会情勢をよくみながら、地域福祉の推進に協力していこうと思います。

教科書・バイブル的な「堺市ぬくもりプラン」の本誌・概要版も今回の視察でいただきましたので、参考資料として、有効活用させていただこうと思います。